

そして、最後に「仕事を通して、自己実現を図る」と結ぶ。
⑤その上で、「これだけやったんだ」という自信を持って、失敗を恐れず、胸を張って、自らの可能性を信じて、元気に「若さ」で勝負！！

“There is a will! There is a way!”

「ヤル気になれば道は開ける」

「成功する人」:

- ① 「感謝の気持ち」をいつでも表現できる人
- ② 誰に対しても明るく笑顔を忘れず、気持のよい元気な「挨拶」ができる人
- ③ 物事を肯定的に考える「(プラス思考)」人 ポジティブな人
- ④ 日々の生活が、将来を見据え、「明確な目的意識」を持って行動できる人
- ⑤ 豊かな感性を持ち、「想像・創造」することが上手な人
- ⑥ 社会が評価する「スキル、アイデンティティ」を持った人
- ⑦ 人生のステージ毎に一人でも多くの「心の友」を持つことの出来る人
- ⑧ 相手の立場に立った「コミュニケーション能力」を持った人

10. 海外研修・修学旅行

ICTの進展によるボーダーレスの国際化。世界市場という中で、「文化と価値観の違い」を学生が体験し、グローバルな志向性、先進的な専門知識や技術を身につけることが出来ます。

専門学校静岡電子情報カレッジはICTメッカアメリカ西海岸シリコンバレーで、アップル、グーグル、インテル等をはじめとする世界有数の企業やカリフォルニア大学等を訪問し最先端テクノロジーに見聞を広めます。

静岡福祉医療専門学校はハワイで異文化や伝統に触れ、国際的視点に立っての有意義な研修を積むことができ、貴重な体験をさせていただいた。必ずや今後のグローバル社会の中で大いに役立つ経験であり、日本の良さを強く感じ、友人との絆もより深まり、よき思い出となるでしょう。

11. 新入生御殿場宿泊オリエンテーション

「なりたい自分になる」ために本学の学生としての心構えの徹底と一人でも多くの「心の友」をつくることを目的として実施。

本学の「全人教育」と「よりよい就職をするために」の具現化に向け、本学への入学目的を確認しあい、その達成を誓い合う。この成果を、目的達成のために学校生活を送り、しっかりと形にして、「これだけのことをやったんだ」という「自信」と「誇り」につなげる！

また、人生における人的財産となり、お互いに切磋琢磨できる「心の友」を、この専門学校生活の中で一人でも多くつくり、「友情を育み」大切にしてほしい。

「朋友は 我が喜びを 倍にし、悲しみを 半ばにする」

これからの君たちの日々の生活が、「感動」を求め、「充実感」、「達成感」ある生活であることを期待する。

12. 新入生保護者様 後援会入会にあたり

平成30年度新入生の保護者様、本学園後援会にご入会いただきありがとうございます。

本学後援会は、後援会会則にもありますように、「学生に、より充実した学生生活を送ってもらう」という目的のもと、本学の教育と研究の両面で、就職活動をはじめ学生各種活動補助、入学式・卒業式に際しての援助、教育・研究環境整備への補助、専門職業教育学会、産学連携・学校連携等に関する支援など、多大なご尽力をいただいております。

については、学校教育と家庭教育の両輪で、学生たちを胸張って社会へ送り出すため、今後も本学園の教育内容をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

これからの皆さんの人生に、

I was born. Keep alive. 「人は、生まれ、生かされている」、
「人は誰もが、無限の可能性を秘めている」ゆえに「日本人としてのアイデンティティを持ち、仕事を通して自己実現を図る」と職業教育を熱い心で教え、「人づくり60年」の生涯教育者であった本学園創設者中村忠雄学園長の教えを卒業後の社会生活の中でも活かし、「りっぱな日本人」になっていただきたい。

以上

『平成30年度の指導方針について』

教頭・教育部長 有賀 浩

建学の精神、校訓を根本とし、「明るく元気のよい挨拶を基調とした全人教育」、そして「勉強と仕事を通して自己実現を図る」こと。グローバル社会を生き抜く為に「日本人としての自信と誇りを持ち、確固たるアイデンティティを確立する」。これら本学における職業教育の土台となる教育理念（創立30周年を超えてなお不変であること）を確と心に据え、夫々の学校・学科・専攻・コースで、社会人基礎力の上に目標とする職業に必要なスキル・資格を積極的に修得、各自が目指す職場、職種への就業を果たすことが、専門的職業教育のための高等教育機関としての本学の役割だ。加えて、生涯学習機関として卒業生や社会人等を対象としたリカレント教育にも対応する。

学科ごとに異なるが、修業年限という限られた時間の中で「人財」となるために、まず一日も早く職業観を養い、就職という目標を明確化しよう。そのためには本学が最も力点を置く『産学連携教育プログラム』<産業界・福祉・医療・子ども・教育等、各分野との密接な連携による実践的・体験的な職業教育>により、企業人・現場スタッフ、時には卒業生からも直接指導を受け、関わり合うことで、キャリアイメージを明確化する。更に各自の就職目標達成に向けた学びに対するモチベーションを高める。そしてこの貴重な経験を通して見つけた課題を持ち帰り、アクティブラーニングを活用した学内での学びで解決を目指す。

「創意進取の研鑽」を重ね、試行錯誤を通じ、「クリエイティブな精神」を大いに培う。プロフェッショナルとなった後も、それぞれの就職先で「現代社会の変化に対応」して積極的に動き、自ら課題を見つけ解決する力量、付加価値を創造する力量を伸ばすこと。校訓「技術は力なり 我は我が道を行く」のために必要なこれらの「力」を、修学期間中に一つでも多く身に付けよう。

両専門学校共に文部科学大臣から認定されている「職業実践専門課程」としての責務も果たさなくてはならない。各界のプロフェッショナルや専門分野で豊富な経験を積んだ卒業生を中心に構成する教育課程編成委員会を基軸に、我々教員も多くのチャンネルを駆使して、斯界のニーズを的確に反映したカリキュラムの構築と教育を実践するために研鑽を重ねる。

また本学ならではの「ICT(情報通信技術)×福祉医療」によるコラボレイト教育、永年継続して地域から高く評価されているボランティア活動も一層充実させる。

専門学校での高度職業教育は「中核人材の育成」についても大きな期待が寄せられている。引き続き今年度も文部科学省委託事業(全国の専門学校・企業・業界団体・学識経験者とのコラボレーション

ョンによるカリキュラム・教材研究開発並びにコンテスト等のイベント開催）とその普及に本学も参画する。

超少子高齢化、人口減少、そして第4次産業革命という環境の下、「キャリアイメージを常に持ちながら質を高めていけるプロフェッショナル」になるための着実な教育を実践し、その成果として優秀な人材を世の中に輩出する一年としたい。

*「職業実践専門課程」

専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを、「職業実践専門課程」として文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするもの。平成26年度より新設された。本学園が設置する両専門学校とも認定を受けている。

『専門学校静岡電子情報カレッジ 分野別教育方針』

教頭・教育部長 学科長 有賀 浩

第4次産業革命、インダストリー4.0、ソサエティー5.0という言葉が飛び交う技術革命の時代がいよいよ本格化。IoTが産業・医療・介護・教育・農業・建設・インフラの現場から一般家庭に至るまで広がり、そこから得られるビッグデータをAI（人工知能）で分析。その結果、新たなシステムが次々に開発・実用化され、幅広い分野で人手不足の解消、過重な労働からの解放、安全性・生産性の向上など、無数の事例が見られるようになりました。このような時代において、「IoT、AIを活用し、複数のサービスやシステムを融合・複合、そこに新しくかつ高度な『付加価値』を生み出す力」を持った人材が求められています。

専門学校静岡電子情報カレッジでは、産学連携教育プログラムを基軸として、時代に即応するための『専門的スキル』とコミュニケーション能力を土台とした『社会人基礎力』をダブル養成。システム系である「ロボット創造学科」「ゲーム応用学科」、コンテンツ系である「映像・音響デザイン学科」の3学科から、専門特化されたプロフェッショナルを輩出し、卒業生は各分野で活躍しています。

●ロボット創造学科

今、政府も産業界も「ロボットによる新たな産業革命」として打ち出し、国を挙げてロボット産業に取り組んでいます。その応用分野も企業から一般家庭にまですそ野を広げています。IoTやAIと組み合わせられ、その動作はどんどん高度化しています。

ロボット創造学科では、本学が開校以来培ってきた「組込み技術」をロボット分野に拡大。3Dプリンタを本格的に活用したものづくり技術、ハードウェア技術（電気・電子、デジタル回路）、マイコ

ンシステム開発（ハードウェア/ソフトウェア）、センサー技術、アクチュエーターと、多岐にわたる技術を、学内での豊富な実習に加え、産学連携教育プログラムを通じて確実に習得します。アーム型ロボット、二足歩行ロボット、ライントレーサーなど、その成果を様々なイベントで対外的にプレゼンテーション。昨年度の静岡市内のイベントからレベルアップして、今年度は東京ビッグサイトでの展示・プレゼンテーションを目指します。社会に評価して頂くことで、更なるレベルアップを図りましょう。



●ゲーム応用学科

本学科では「ゲーム」自体を高度なコンピュータシステムの一つとして捉え、その設計・開発に必要なスキルを養成します。他のITシステムに比べ、リアルタイム性、高度な画像処理、複雑な多重処理など、求められる技術はたいへん高度なものです。入力装置であるゲームコントローラも進化に加え、操作する人を認識するカメラも搭載。テレビ画面に加えてゴーグル型のディスプレイもごく普通に利用されています。このようなハードウェアに対応し、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）にまで拡張された新たなプログラミング・スキルが求められています。

これらを習得するためには、産業界のサポートが欠かせません。短期・小規模なものから実践的に開発を繰り返すことで、徐々にレベルアップを図ります。経験値も上がり、振り返った時に自らの成長ぶりに感激します！

こうして身につけられたスキルで全国レベルのコンテストに挑戦。昨年度以上の成績を目指しましょう。そして自らが目標とする業界・職種を明確にし、「就職」という夢を実現しましょう。



●映像・音響デザイン学科

本学科はIT基本技術・社会人基礎力を土台として、映像・音響分野の実践に即した授業内容で最先端の技術や知識を身につけ、関連分野の企業や団体とタッグを組んで、テレビCM制作、ラジオ番組制作、Webデザイン等、クリエイティブな活動を展開。マスメディア、インターネットを通じて多くの方々に見聞きして頂けるコンテンツ制作を行います。時にはクライアントとの折衝も体験。コミュニケーションを含め、大いに経験値を高めて、即戦力となる人材を目指します。これらの活動を通じ、世間からも、プロからも評価を頂き、その結果を省みて、レベルアップを図る。まさにPDCAサイクルですが、これを在学中の一つでも多く経験しましょう。

この分野で特に求められるのはセンス。その養成にはコツがあり

ます。日本では古来より武道や芸術の世界で師弟関係を「守破離」という言葉で表してきました。始めは先人達の作品に触れ、模倣することから始まります。彼らがその中にどんな思いでどんな技術を注ぎ込んできたか、やがて理解できるでしょう。そこから独自の感性を積み上げていくのです。若きクリエイターの力を結集し、明日の日本をデザインしよう！！

『静岡福祉医療専門学校 分野別教育方針』

●総合福祉学科

未来は光輝く！

学科長 磯野 博

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

まずは皆さんとの出会いに感謝します。

入学式を迎えた皆さんの胸中にはいかがなものでしょうか？大きな期待と少しの不安で一杯のことでしょう。しかし、敢えて断言しておきます。大丈夫です！

皆さんには、本学30年の歴史と5,000人の先輩たちが付いています。そして、校長先生はじめ、教職員の方々が常に皆さんのことに心を砕いて下さっています。

皆さんが福祉・介護の道を志されたことも極めて懸命な判断でした。この道は、多少の坂道や曲がり道もありますが、真面目にコツコツ歩んでいけば必ず報われる道なのです。利用者さんや家族から感謝され、自らが他社によって生かされている「I was born keep alive」ことを常に実感しつつ、「果て無き自己実現」を迫り得る道なのです。時として心無い報道に心を惑わされたこともあったでしょうが、そのような暗雲は吹き飛ばし、自信と誇りを持ってこの道を歩んでいきましょう！

また本学は、「地域に開かれた専門学校」としても有名です。先輩たちの活躍は学内に留まらず、子育てママサロン活動、補助犬啓発活動、大道芸ワールドカップノーマライゼーションスタッフ活動など多岐にわたっています。また、電子情報カレッジの学生とのコラボレーションによる活動も行われています。

「ちょっと勉強は苦手!？」という方も、このような諸活動で活躍して下さい。

皆さんの未来は光輝いています。本学で出会った「心の友」とともに、若い力で2年間、3年間を駆け抜けて下さい。

期待しています。

ピカピカの1年生たち、頑張れ！

